

第2回 都民等との協働による動物との共生推進拠点の整備検討会

<議事要旨>

1 会議概要

- (1) 開催日時 令和4年11月1日(火曜日)午後1時30分から午後3時35分まで
- (2) 開催場所 都庁第一本庁舎 N2会議室(Web会議併用方式)
- (3) 出席者 委員5名、設置要綱第6(2)の規定に基づく出席者2名

2 議事内容

- (1)関係者との協働促進(動物愛護に関心のある層に向けた事業展開)
- (2)都民に身近な施設になるための取組(動物愛護に関心が薄い層も含めた取組)
- (3)新施設の整備と運営手法

- 事務局より友森委員が検討会委員を辞任されたことを報告
- 事務局より資料1から資料3まで説明
- 委員等より意見発表(委員提供資料1から委員提供資料4まで)
- 議事(1)から(3)まで検討

【主な発言等】

<関係者との協働促進(動物愛護に関心のある層に向けた事業展開)>

(動物愛護推進員、ボランティアとの協働)

- 動物愛護推進員の資質向上を図り、推進員が都民向けに講習会を開催すると良い。1コマは都職員の講義、あるいは、獣医系大学や民間団体など、動物福祉関係講座に実績のある機関の講義を実施すれば魅力的なプログラムになる。
- 夏休み等に動物愛護推進員が子供向け動物教室を開催すると良い。推進員と一緒に、子供たちが自由に来て動物のことを学ぶ開かれた場所にする。子供たちの動物への関心は高く、例えば、犬との接し方を学ぶと、それを帰宅後に保護者に伝えるので、家庭を通じた普及啓発につながる。また、子供同士のコミュニケーションの場にもなり、学べる場所であり楽しい場所になり得る。児童福祉分野との連携ができて、不登校児など子供たちにとって過ごしやすい場所の一つになってくれるとなお良い。
- ボランティア団体との合同譲渡会を開催したり、ボランティア団体主催の譲渡会に会場を貸し出したりすると良い。週末等にイベントが開催されることで、施設に活気が出て、足を運ぶ人も増える。
- 欧米の動物シェルターの特徴は、施設が開かれており、ボランティアが非常に出入りしやすいこと。参加条件は年齢と最低限の活動時間のみであり、いろいろな時間帯・曜日に活動可能である。内容は直接動物に関わるものからウェブサイトの管理まで多岐に渡り、多くのボランテ

ィアが気軽に取り組み、活躍している。事前アポイントも必要なく、週末を含めていつでも活動することができる。

- 東日本大震災対応の支援時にボランティアのコーディネートに苦勞した経験から、ボランティアの交流やコーディネーターの養成が必要だと感じる。ボランティア同士が勉強し合い、動物愛護の関係者が連携する拠点になれば、高齢者等の動物飼養に起因する問題など、地域で人の福祉との連携が必要な事案のバックアップにもなる。
- 海外では、ボランティアが収容された犬のトレーニングとして、たくさん散歩に連れ出している。多くのボランティアが関わる間に犬や猫が人に慣れて、譲渡できる状態になっていく。そして、譲渡後に新しい飼い主が扱いに困って返還するようなことがないように、しつけ教室を開催している。
- 海外では、施設内にボランティアの居場所、情報交換の場がある。休憩室兼ロッカールームでは、職員も休憩に来てボランティアと交流しており、ボランティアの参加意識を高める効果がある。

(関係機関との連携)

- 関係機関、警察、民間団体、大学などとの信頼関係を構築するため、定期的にシミュレーション会議を実施するなど、平時から連携を強化すると良い。
- 関係機関との協働に当たっては、行政がイニシアチブをとる必要がある。行政は民間団体等と役割が違って毅然と対応しなければいけないことがある。
- 民生委員が動物の多頭飼育崩壊や虐待に早期に気づくケースもあるので、社会福祉関係者を協働相手と捉えるべき。地域の福祉部局、民生委員、ケースワーカー等と連携して解決できれば、飼い主に寄り添った対応となる。
- 収容動物の飼養管理や診療の支援等について獣医系大学との連携を進めるべきである。
- 虐待対応をはじめとする様々な事案は、都民の悩み事でもあるので、ある程度は欧米のように引取り窓口を広げつつ、行政が担えないことは、獣医系大学や関係団体と連携して取り組む体制を作れば良い。首都東京が日本独自の先進的なやり方を生み出し、全国のモデルケースとなってほしい。
- 施設は、無責任な飼い主が罪悪感なく飼育放棄できる場所になってはいけない。飼い主モラルの向上と、人がたくさん来る楽しく開かれた施設にするという2点の両立がポイントとなる。この点について、協働する関係団体と認識を揃えることが必要。

(民間企業の活用)

- ペットの主要な入手経路であるペットショップに、新たに飼養する人向けのリーフレットなどの配布を依頼すると良い。
- 他自治体で、動物愛護センターの管理を広告代理店機能のある事業者へ委託して、情報発信を効果的に行っている事例がある。動物愛護関係のみではなく、特定の分野を得意とする方(業種)も“協働する関係者”と捉える視点があっても良い。

(その他)

- 犬猫の安楽死処置について、飼い主がかかりつけの動物病院に相談するよう働きかけることも必要だが、処置を拒否する動物病院がある。獣医師の意識改革のため、獣医師会や大学に働きかけてはどうか。
- 欧米の動物シェルターの一側面として、飼えなくなったペットを安易な気持ちで、身近な存在である動物シェルターに連れてくることがあるが、日本は学ぶべきではない。欧米の動物シェルターが非常に進んでいると言われるが、良い部分だけを取り入れてもらいたい。
- 動物虐待を防ぐという意味で、虐待されるなら引き取って新しい飼い主につなぐことを一番の方針とする考え方もあるが、全ての事例を解決することは不可能である。公衆衛生、動物福祉、人の安全のどの部分に焦点を当てるかを考えるべき。

<都民に身近な施設になるための取組(動物愛護に関心が薄い層も含めた取組)>

(相談窓口)

- 動物愛護に関心の薄い層、幅広い層へのアピールは非常に難しいが重要。不適切飼養や虐待疑いから飼い方等に至るまで、幅広く受け止める相談窓口として都民に浸透し、信頼を得ることが重要。
- 動物虐待が犯罪であること、不幸な動物を守ることは都民の安心と安全につながることを理解を広げていく。動物虐待に早期対応することで人への被害を防ぐなど、人の福祉、公衆衛生を絡めて周知するのが効果的。
- 理不尽な相談・要求に対してはハードルを上げる必要がある。

(普及啓発)

- 家庭における適正飼養モデルルームを展示すると良い。
- 学校への出張授業や校外学習の受入れを行う。教職員用の講座も行うと有用である。
- 一度に多くの人に知ってもらえるという点で、小中学校で出前授業をできたら良い。愛護を打ち出し過ぎないスタンスが効果的。
- 「いぬねこの学校」として、“正しく”よりは“一歩引いた感じ”の「行ったら楽しそう、行って見たらためになった」というイベントを開催できると良い。
- 海外では、子供向けサマースクールの実施など、子供たちをターゲットにしたイベントが非常に上手で、数も多い。子供たちが動物について楽しく学べるものや、週末に風船等を無料で配布するもの、小さい子供への動物の本を読み聞かせるもの等がある。付き添いの親も動物シェルターの活動を知ることになり、当初は関心がなかった親も動物に興味を示すことも多い。
- 災害時の同行避難について、どこで勉強したらいいのかわからない層に向けた公開講座を開催すると良い。例えば、災害時の同行避難について動物を飼っていない人に知ってもらうには、町会や避難所開設者を対象にすると良い。
- ペット防災は大事だが、堅苦しいと準備に踏み込めないのが、普及啓発にもっと“楽しめる”要素を付加すれば良い。
- 期待したい価値の創出として“つなぐ”がある。飼っていて困り事がある人が訪れたときに解決

のヒントや地元の専門家の情報を得られると良い。また、「知らない」を「知っている」につなぐためには「行くと楽しいな、ためになるな」が重要。正しさを押し付けすぎない塩梅が効果的。

(情報発信)

- 幅広い層に向けてはSNSの活用が一番有用。アニメ、テレビCM、若い層にはユーチューブ広告、公共交通機関・電車などへの広告も良い。
- 広報手法としては、コンテンツのSNS配信、口コミサイトやお出かけサイトへの掲載、ウェブ広告などがある。
- イベント情報の発信は、ユーチューブに公式アカウントを作って動画配信すると、ユーチューブ検索で目に触れるので効果的。ニュースレター配信や、イベントをお出かけサイト等に掲載すると、家族連れ等の来場を誘導できる。
- 知ってもらうのに一番効果的なのは広告。リスティング広告やフェイスブック等のSNSに広告を入れるのも効果的。
- 情報発信で、SNSを活用する場合は、リツイート誘導なども含めて作戦が必要。SNS上で動物動画は多いので、「職員さんと犬猫」をテーマにした動画など、視点を変えた切り口にすると注目度が上がるかもしれない。
- 犬猫と暮らしている人、暮らしたい人に向けては、既存のコンテンツを活用して情報発信すると効果的。
- 海外の動物シェルターでは、ホームページをはじめ、ネットを使って情報配信をしている。一例として、動画を活用して、ウェブ専門の担当者、それをサポートするボランティアが上手に話して紹介している。
- 関心の薄い層に対しては、とにかく目に触れるようにするしかない。海外の動物シェルターは、季節の祭りなどにブース出展し、多くの人目に触れる機会を作っている。見慣れると深い興味につながる。動物以外のイベントにも、商業施設などにも出展している。

(交流の場としての活用)

- 体が不自由な人にも、その人に合った動物とのふれあい方、楽しみ方を案内する事業があっても良い。
- 動物飼養者の交流の場となり、愛犬と一緒に参加するしつけ方教室参加や、気軽に来られて話ができる場所になると良い。例えば犬を飼っている高齢者が入院する際に預け先が自然に見つかる、人と人がつながる拠点になってほしい。
- ドッグランを活用して、飼い主マナーの普及啓発、しつけ方教室を行うことで、飼っていない人に飼い主の取組を知ってもらうことができる。
- 動物をこれから飼う人、飼い始めた人、失った人が集ってざくばらんに情報交換できると、これから飼いたい人が飼う準備や心構えに気付く機会にできる。
- 合同避難訓練は是非やってほしい。飼い主と行政だけでなく、関わる各種ボランティアが集まり、顔見知りになる機会を作れると良い。
- 動物と関連のないイベント等に施設の会議室等を貸し出すのは非常に有用。

(その他)

- 動物への興味が薄い人が、関心を持つ動機を“犬猫はかわいい”と置くと、人気動物園の集客が参考になる。動物園では行動展示など独自の価値を創出した事例もある。
- 関心が薄い人の“お出かけしたい”“写真を撮ってSNSでいいねが欲しい”に対して、セルフ写真館など、家族や若いカップルで参加等できる事業が良い。
- カフェには人が集まる。犬猫を連れてきて遊ばせて、家庭での飼育法のヒントが得られると良い。
- ドッグランは、来所のリピートにつながる。
- トレーニングルームを設け、トレーナーから助言やトレーニングを受けられたり、地元のトレーナーを紹介してもらえたりすると良い。
- 常設で猫や犬の専門書店や、夜間動物病院が併設されているとアピールポイントになる。
- 自撮等の写真スペースに加えて、子供のトリミング等の職業体験や、亡くなったペットの樹木葬ができて良い。
- 海外では、致死処分を行っている公の動物シェルターでもあまり悲壮感がない。非常に開放感があって明るく、誰でも訪れることができる。かわいい絵が描いてあり、清潔で動物臭などの不快感がなく、行きやすい場所にある。週末も開所しているので、仕事があってもアクセスしやすい。獣医大学との連携事例もある。

<新施設の整備と運営手法>

- 親しまれる公共施設とは、たくさんの方が利用できる施設である。長く愛されるためには立地が最も重要。何かのついでに立ち寄れること、できるだけ公共交通機関の最寄り駅から徒歩で行けることが必須。敷地の条件としては、広い、眺望が良いなど地形、交通量の多い広い道よりは適度な交通量の道、隣にどういふものがあるか、を重視すべき。
- 敷地は、動物愛護の観点から当然として、立地を含めた都市デザインと施設運営や財政面も含めた観点から専門家の検討を踏んで選定すべき。敷地が決まったら設計を決定する前に、街の中にある施設としてどう活用していけるかを、自由な発想で、駅からの街並みや周辺施設などのネットワークも含めた、ビジュアルでイメージできる図を描くことが重要。それができてから、周辺地域と対話していく、つまり、まちづくりの一環として敷地の選定、施設のコンセプトを作っていく、ということが必要。
- 機能とデザインとプログラムは一体で、個別に考えられるものではない。機能と運営方法を考え、同時にそのための空間や施設を考えることが必要。
- 施設設計の段階になったら、デザインコンペやプロポーザルを行うべき。プロセスが公開されて公平性と情報発信の両面でメリットがあり、設計の住民意見を組み込んだり、PPP・PFIなどで経営する、という条件を組み込むこともできる。
- コンペの条件を決める際に、動物愛護関係者に参加してもらおうと、施設を使用する側の経験や専門性を設計条件に反映することができる。

- 様々な用途に使用できる広いホールがあると活用しやすい。イベントでの活用の他、災害や多頭飼育崩壊が発生した際の動物の一時保管施設にもなる。
- 施設に広さを求めると候補地が限られる。迷子動物の返還では、便の良い場所に一時的な動物の保管施設を設けたり、オンラインで収容動物を確認できたりするといった東京都ならではの対策があっても良い。
- 敷地内に給排水、電気というインフラを整えて、災害発生時は駐車場に仮設の設備を設置するなど、柔軟に対応できる機能を持たせてはどうか。
- 収容動物のエンリッチメントを充実させ、悲壮感なく展示性を高め、人々を呼ぶ環境づくりを行うと効果的である。
- 海外の施設では、立地が良いだけでなく、明るく整然としている。また、寄附を行った人が、動物を飼養している部屋の名前を決めるなど、寄附したことを見えるようにする工夫がある。

(4)その他

事務局から、次回の検討会は12月を予定していることを説明。